

技術部会が発足・第一回会合を開催

「ソフトウェア品質管理の実際」

オムロンソフトウェア(株) 中江マネージャーの講演

今年度の新規事業計画として、会員各社の技術部門管理者を中心に構成し会員相互の技術研鑽をめざした技術部会が発足した。システム開発の生産性、ソフトの品質管理、新技術の取組等、我々の環境を取り巻く課題をテーマに技術的側面からの

アプローチによる研究活動を開始した。この技術部会のコーディネーターには、協議会幹事のワールドビジネスセンター(株)池田常務取締役が担当され表の技術部会員がエントリーされた。この第一回目の部会が七月十二日に霞会館で開催され、会員

十二社二十一名が参加された。今回はオムロンソフトウェア(株)品質管理部マネージャーの中江氏による「ソフトウェア品質管理の実際」について、同



(技術部会 中江氏の講演)

京都府情報化

施策説明会

取組状況をかえりみた意見交換が行われた。今後の継続課題として会員相互の共通した認識を深めることができた。

昨年二月に開催された第一回目に引き続き、平成七年二月八日(水)、平安会館で第二回目の京都府情報化施策説明懇談会が開催され、会員十二社、二十二名が参加した。

京情協「技術部会エントリーメンバー」

(50音順)

会社名	役職名	氏名
(株)アクシス	部長	川島 充
オムロンソフトウェア(株)	グループマネージャー	平林 章
(株)京信システムサービス	部長 主任	佐々木 洋哉 俊 夫正
京都電子計算(株)	部長 課長	辻 邦夫 隠 岐
(株)近畿リサーチセンター	主任	細川 浩二
けいしんシステムリサーチ(株)	代表取締役社長	北山 寛巳
(株)ケーケーシー情報システム	部長 次長	小林 聰光 川 輝
島津エス・ディー(株)	取締役開発部長	北村 昱
(株)スリーエース	部長 係長	中片 久茂 矢山 貴
(株)総合システムサービス	取締役部長	中田 一夫
(株)日新システムズ	部長 部	小山 實 寺崎 恒
日本コンピューターファシリティ(株)	取締役部長	加納 孝治
(株)ユニシス	部長 課長	浦安 正 屋 節
ワールドビジネスセンター(株)	部長 課長	利根川 有次 山崎 伊佐緒

京都府からは、中小企業総合センター経営部経営課長藤井康男氏、商工部工業課主幹手塚勝利氏にご出席を賜り、府教育庁指導部高校教育課課長の寺田俊男氏より、学校教育、特に「府立高校における情報化とコンピュータ教育の現状について」をテーマにご講演をいただいた。府の高校教育におけるパソコン教育の現状、機器の普及状況、また実際の教育現場で情報化教育に取り組みられている先生方の悩みや課題もお聞きし、業界としてお手伝いできる部分があるのではないかとのご共通認識を深めた。

平成七年度通常総会を開催

京都府下での情報産業発展の一翼を担い 平成七年度総会を開催、さらなる会員の結束を深める

通常総会

京都情報サービス産業協議会の平成七年度通常総会が、四月二十日(木)、午前十一時から平安会館において開催された。来賓として京都府から商工部産業推進課長奥田慶一郎氏、同主幹

手塚勝利氏、同産業技術係長森田健氏、府中小企業総合センター経営課長藤井康男氏、また京都市からは商工部産業振興課長大槻泰氏、同課長補佐小池康夫氏のご臨席のもと会員十三社十九名(欠席一社は委任状提出)が出席した。

開会にあたり来賓の紹介、会員の紹介があり、引き続き白石会長の挨拶の後、議長に白石会長が選出され議案審議に入った。

第一、二号議案「平成六年度事業報告、同決算報告」に引き続いて第三、四号議案「平成七年度事業計画および予算」が審議され各議案とも原案通り承認された。

白石会長の挨拶

今日は時節柄、お忙しい中、ご来賓の方々、会員の皆様のご出席をいただきまして通常総会が開催できますのも日頃のお力添えがあつてこそと心から感謝申し上げます。

ところでご承知の通り日本の置かれている経済の長期低迷もようやく底着いた感があつた今

年でありませう。そして多少なりとも明るさが見られた矢先でありましたが、大変お気の毒な阪神大震災があり、現在なお続行している円高の進行でこのまま七十円を突破するようにならなければ日本の経済はどうにもならず、大改革をやらなければ成らないとも言われています。また地方選挙で見られますような政治情勢があり、さらに世間を騒がせているサリン事件についての大捜査網がひかれています。平成七年度になってからこれまでに経験したことのない変化に遭遇しています。我々の業界は依然として厳しい状況にあります。技術革新の将来を見据えた取り組みというものが大変重要な時期に来ているのではないかと思っています。

本日は平成七年度の事業計画をご審議頂くわけでありませうけれども、この協議会の発足経過に思いを寄せますと、現在の会員十四社は将来的には活動の核に成るだろうし昨年度の活動実績を踏まえて総合的に判断しますと、組織の拡大に取り組んでよいのではないかと思います。それと同時に会員相互の研鑽と体質強化を図るために我々にとって何が得られるのか、その方向性を見出すことが必要ではないのか、とは申しましても当協議会はまだまだ微力でありま

会報

編集：協議会事務局



総会風景

この後、来賓

この後、来賓

この後、来賓

すけれども、ここで飛躍することが必要ではないかと考える次第でございます。

何卒、本日は積極的な審議をいただき、より充実した活動が図られるよう、ぜひ全会員のご協力をお願いいたします。

本日は大変お忙しい中、ご来賓としてご臨席を賜りました京都府、京都市の関係者の皆様におかれましては是非、今日の総会の内容をご承知いただきましてご支援、ご指導をお願いする次第でございます。

最後になりましたが皆様のご健勝を祈念いたしまして開会の挨拶とさせていただきます。

京都府商工部 産業推進課長

奥田慶一郎氏のご挨拶

産業推進課の奥田でございます。4月の組織改正で従来の工業課に新しく情報と技術とデザインを担当する係が発足し、課名も産業推進課に変わりました。技術係長には忝田が着任し、今後は情報関係に力を注いでいくわけですが、詳しい中味は今後の説明会に譲りたいと思っております。

さて、この分野には、これから我々が考えていかなければなら



らない世界が広がっています。その中の一つとしてインターネットがあります。これにつきましては、昨年、京都産業情報センターに利用研究会が発足しました。この研究会には府からも市からも参加しておりますし、インターネットで何ができるかを研究しておりますので、当協会の会員の方も是非参加していただきたいと思っております。

ところで、インターネットに関しまして、本日、この場で一言申しあげたいことといたしまして、先程のお話にもありましたが、技術の価値がこれから益々重要になってくるということがあります。例えば、京都市がインターネットの接続サービスを個人を対象に低料金で提供する仕事を始めておられますが、インターネットのプロバイダーは日

本でも二十を超えており、その多くは親子関係の状態にあります。大手プロバイダーは大口ユーザーを対象にしているわけですが、ここで何がネックであるかと言えば、個人ユーザーが接続する機器にソフトをインストールするのに手間がかかり商売の利益にならないことであります。大手はダイヤルアップIP接続の個人客は望まない。従って利用者は機械を販売したところらに接続技術を買ってやるわけですが、この技術の価格体系が定着しない。友人に頼めばタダ、一方社長命令なら経費をい

とわれないといった状況では技術の価値が混乱してくる可能性があります。ここで重要なことは組織として体制を築き、その中でソフトの価値、技術の価値が社会的に認められるよう訴えていき、事業として確立していくことだと思っております。

これからは商売として繁盛する方向の芽は出てきていると思っておりますので、それを事業化するよう、この協議会が益々発展することを祈願いたしまして挨拶の言葉とさせていただきます。



京都市商工部 産業振興課長

大槻 泰氏のご挨拶

ご紹介いただきました京都市産業振興課の大槻でございます。京都情報サービス産業協議会におかれましては、ただ今、議案審議を滞りなく終えられましたことを心からお喜びいたしますとともに、平素は市政の推進に格別のご協力、ご理解いただいておりますことをこの場をかりて厚くお礼申し上げます。

総会の資料を拝見いたしますとようやく業績も回復基調にあるとのこと、大変喜ばしいことだと思っておりますが、会長のご挨拶にありましたように円高等の懸念材料もあります。しかし、国でも二十一世紀に向けて



最も成長性の高い分野は情報、通信関連産業であると発表しています。情報化社会と言われ始めて久しいわけですが、特に最近ではマルチメディアやインターネットについての記事が毎日のように新聞紙上を賑わしています。とりわけインターネットについては専門の月刊誌も幾つか出版されるなど華々しく脚光を浴びております。

つい先日N T Tがコンピュータ通信の専用回線を全国に張り巡らせることを発表しています。これが実現しますとインターネットの普及に一層拍車がかかるものと思っております。

本市においても京都の健全な情報通信基盤を整備するため、インターネット事業を開始し、現在、毎日処理が追いつかない程の申込をいただいておりますが、できるだけ多くの方、企業、市民の方にご利用いただくことによって情報関連産業に新たな需要を創出することを願っております。京都から国の内外に向けて情報の発信ができる仕組みを作るなど、今後とも情報基盤の整備に積極的に取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、この協議会の益々のご発展と会員企業の発展、参加されている方々の健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

総会第二部 説明会

総会に続き、午後の第二部では京都市中小企業総合センターの経営課長、藤井康男氏より「地域景気動向と平成七年度の商工施策」について説明がされ、府の産業技術の振興策、国際化の推進、情報化の推進、経済構造の変化に対応した中小企業活性化対策の推進等について、商工部当初予算の概要が紹介された。

次に京都府商工部産業振興課の産業技術係長、忝田健氏より「インターネットの概要とこの取組について」と題して説明があり、京都インターネット利用研究会に二十三社が加盟している(財)京都産業情報センターでの活動状況がビデオ映像による説明を交えて報告された。

最後に、京信システムサービスの協議会幹事新宮氏より閉会



(忝田氏)

の挨拶があり、総会の併催企画行事を終了した。



(左：手塚氏 右：藤井氏)

水野副会長が退任・・・ 新副会長には小室氏が

このたび水野副会長が退任され、後任の副会長に小室氏(株)ケーケーシー情報システム代表取締役社長)が就任されました。(6月29日付)

水野前副会長は協議会の発足に尽力され、協議会の発足後は



(前：水野副会長)

副会長として協議会活動に数々の助言や貴重な示唆をいただき、要職を全うされました。在任期間が僅か一年有余でありましたが協議会の充実と発展に尽くされ、業界課題が山積するこの時期の退任が惜しまれます。

後任の小室新副会長には、新たな視点で前副会長と同様に協議会のご活躍を大いに期待いたします。

会員交流会の活動が活発化

会員同士の交流を促進する目的で、今年には既に7、9月の二回が開催されました。交流会の中心テーマとして今年度は会員各社の得意分野、技術分野等の紹介を交え、相互の親睦を深める機会としております。

和やかな雰囲気の中で進められています。上期では、日本コンピュータファシリタ



会社パンフレットや自社の商品カタログ等をベースに宣伝を兼ねた場ともなり各社とも初回からそれぞれユニークな内容

定となっております。開催時期は12月と翌年2月の予定です。

〈平成7年度〉

会員代表者及び担当者変更のお知らせ

オムロンソフトウェア(株)	代表者	代表取締役会長(兼)社長 諸岡透
けいしんシステムリサーチ(株)	代表者	代表取締役社長 北山寛巳
	担当者	取締役管理部長 出野信夫
(株)ケーケーシー情報システム	代表者	代表取締役社長 小室哲
島津エス・ディー(株)	担当者	取締役開発部長 北村昱
(株)日新システムズ	担当者	開発部長 小寺實